

北河内二次医療圏における 救急医療体制について ～ORIONデータ分析結果からみた現状～

北河内救急懇話会 資料
令和元年9月2日（月）

ORION（大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム）全体イメージ



搬送・受入れ

医療機関

応需情報

消防機関

① ICTを用いた病院検索

医療機関

受入要請

病院前情報提供

医療機関

患者情報

病院後情報入力

収集・分析

消防機関

② 救急医療に関する情報の集約化

ORION ダッシュボード

③ 集約された情報の集計・分析

医療機関

データ活用

本日の内容

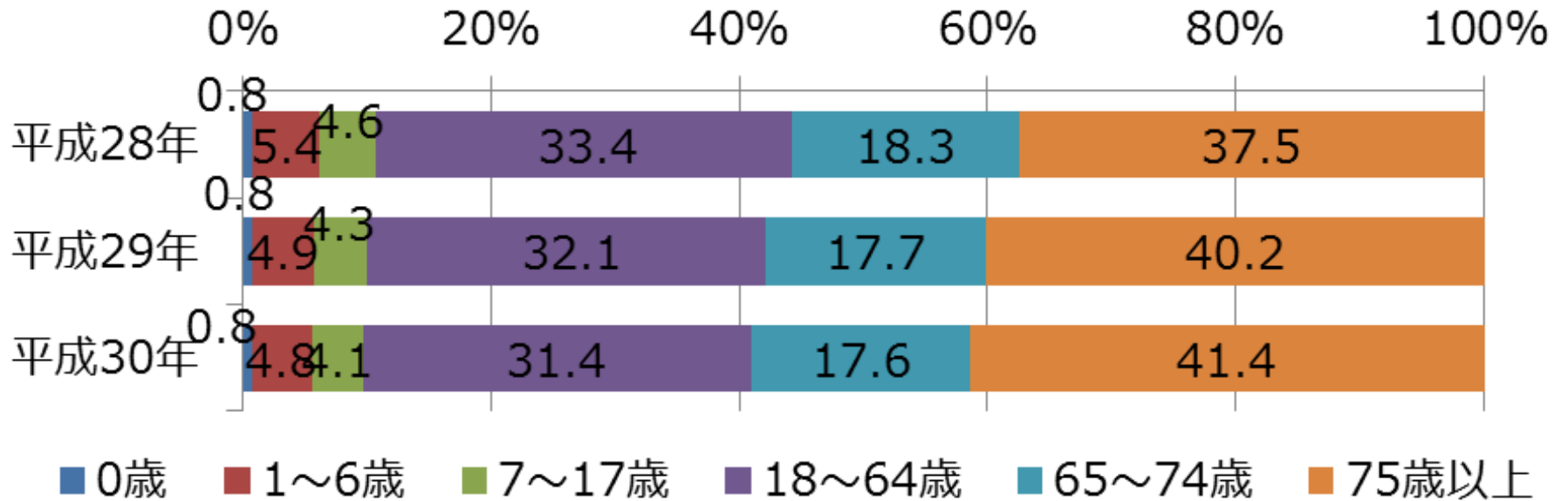
- 救急搬送数について
- 救急搬送困難者について
- 応需率について

【使用したデータ】

北河内圏域の4消防機関が搬送し、病院前情報と病院後情報が紐付いているもの

年齢区分別・搬送件数、割合 (平成28年、29年、30年)

搬送件数の約4割が75歳以上の高齢者。



(人)

	0歳	1~6歳	7~17歳	18~64歳	65~74歳	75歳以上	合計
平成28年	412	2,682	2,287	16,727	9,147	18,752	50,007
平成29年	434	2,687	2,330	17,569	9,694	21,951	54,665
平成30年	417	2,453	2,124	16,175	9,071	21,338	51,578

大阪府の人口及び救急搬送数の推移

	2017年	2025年
大阪府人口(A)	約883万2千人	852万6千人※
Aのうち65歳以上	約234万8千人 (26.6%)	約242万8千人※ (28.5%)
Aのうち75歳以上	約113万9千人 (12.9%)	約150万7千人 (17.7%)
救急搬送数(B)	46万818人	48万9773人
Bのうち65歳以上	26万人 (56.4%)	30万1千人 (61.5%)
Bのうち75歳以上	18万3440人 (39.8%)	24万2755人 (49.6%)

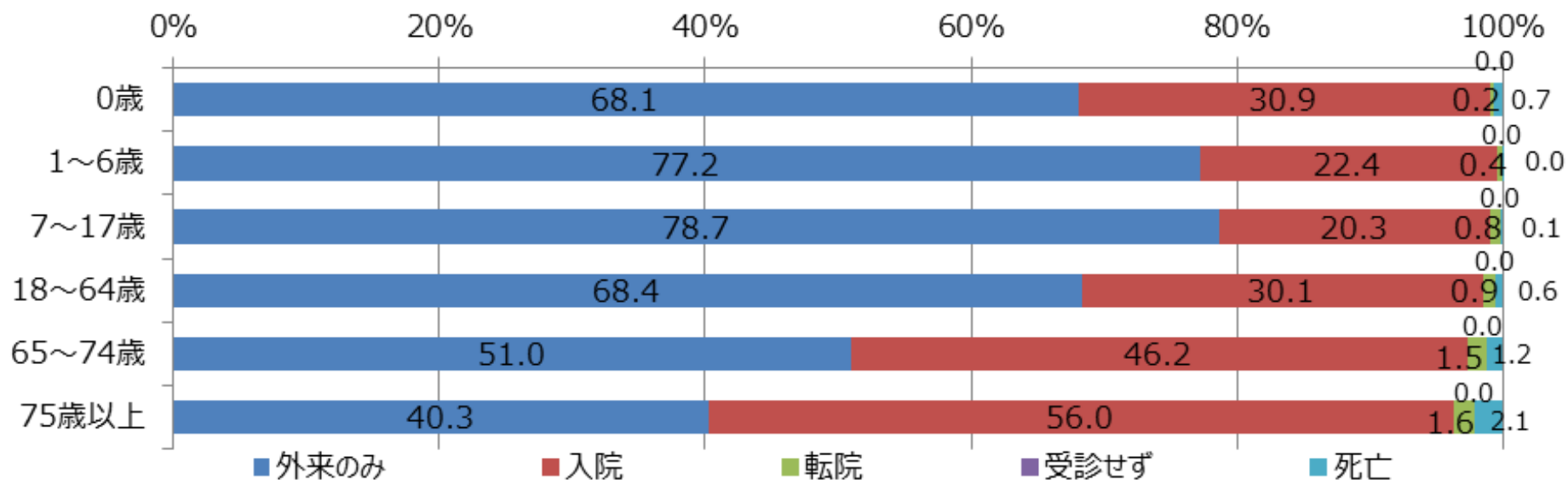
※ : 日本の地域別将来推計人口 (国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月推計)

※以外 : 大阪府における高齢者救急医療体制のあり方について

(2018年12月 大阪府救急医療対策審議会 高齢者部会 提言)

年齢区分別・転帰別・搬送件数、割合（平成30年）

「入院」「死亡」は若年者より高齢者が多い。

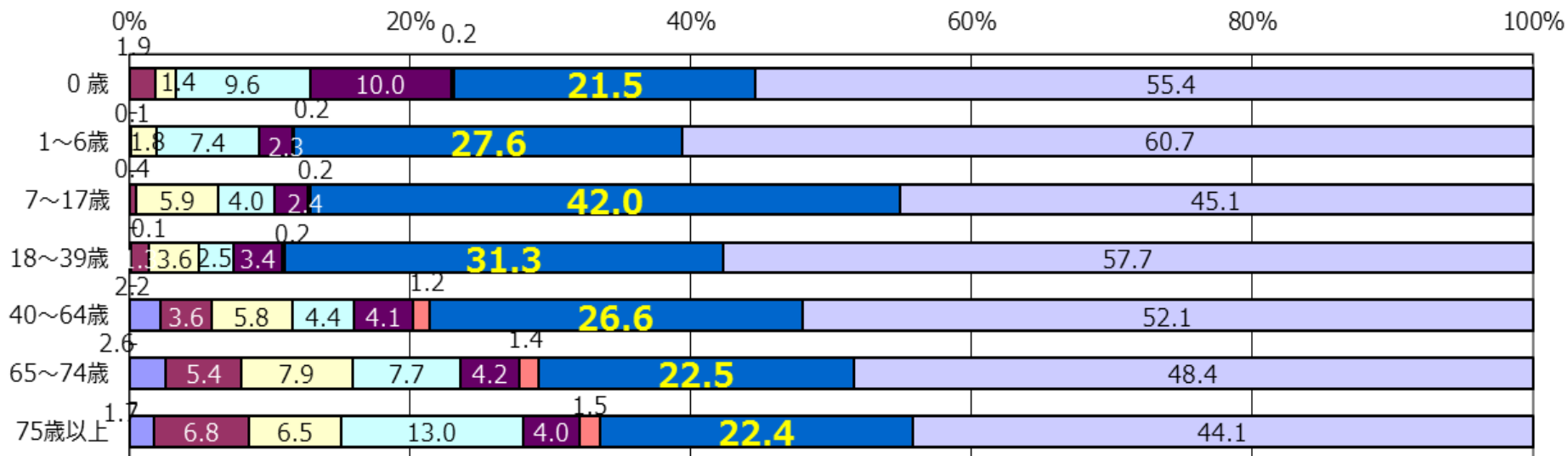


(人)

年齢	外来のみ	入院	転院	受診せず	死亡	合計
0歳	284	129	1	0	3	417
1~6歳	1,893	549	10	0	1	2,453
7~17歳	1,672	432	17	0	3	2,124
18~64歳	11,062	4,870	149	3	91	16,175
65~74歳	4,630	4,193	138	3	107	9,071
75歳以上	8,591	11,958	343	1	445	21,338
総数	28,132	22,131	658	7	650	51,578

年齢区分別・疾患別搬送数、割合（平成30年）

どの年齢区分も外傷が多い。75歳以上の呼吸器疾患も多い。



- 循環器疾患 (ACS)
- 循環器疾患 (ACS以外)
- 脳血管疾患 (脳卒中)
- 呼吸器疾患
- 急性腹症
- 吐下血・消化管出血
- 外傷
- その他

(人)

	循環器疾患 (ACS)	循環器疾患 (ACS以外)	脳血管疾患 (脳卒中)	呼吸器疾患	急性腹症	吐下血・消化管出血	外傷	その他	合計
0歳	0	8	6	41	43	1	92	237	428
1~6歳	0	2	45	183	58	4	687	1,509	2,488
7~17歳	0	9	127	87	52	4	910	977	2,166
18~39歳	6	80	217	151	210	10	1,909	3,518	6,101
40~64歳	229	380	606	462	434	123	2,778	5,448	10,460
65~74歳	237	504	730	712	390	126	2,086	4,488	9,273
75歳以上	374	1,494	1,430	2,847	866	320	4,896	9,662	21,889

年齢区分別・転帰別・搬送件数のうち、現場滞在時間30分以上の件数、割合 (平成30年)

現場滞在が長いのは、7～74歳の転院、18～39歳の入院

年齢区分	転帰	全件数 (人)	現場滞在 30分以上 (人)	現場滞在30 分以上の割 合	年齢区分	転帰	全件数 (人)	現場滞在 30分以上 (人)	現場滞在30 分以上の割 合
0歳	外来のみ	293	13	4.4%	40～64歳	外来のみ	6,713	661	9.8%
	入院	131	3	2.3%		入院	3,556	338	9.5%
	転院	1	0	0.0%		転院	114	17	14.9%
	受診せず	0	0	—		受診せず	2	2	100.0%
	死亡	3	0	0.0%		死亡	77	1	1.3%
	合計	428	16	3.7%		合計	10,462	1,019	9.7%
1～6歳	外来のみ	1,923	64	3.3%	65～74歳	外来のみ	4,735	399	8.4%
	入院	554	10	1.8%		入院	4,286	339	7.9%
	転院	10	0	0.0%		転院	141	17	12.1%
	受診せず	0	0	—		受診せず	3	0	0.0%
	死亡	1	0	0.0%		死亡	111	2	1.8%
	合計	2,488	74	3.0%		合計	9,276	757	8.2%
7～17歳	外来のみ	1,705	127	7.4%	75歳以上	外来のみ	8,833	837	9.5%
	入院	441	32	7.3%		入院	12,243	1,004	8.2%
	転院	17	2	11.8%		転院	352	29	8.2%
	受診せず	0	0	—		受診せず	1	0	0.0%
	死亡	3	0	0.0%		死亡	461	10	2.2%
	合計	2,166	161	7.4%		合計	21,890	1,880	8.6%
18～39歳	外来のみ	4,623	438	9.5%	合計	外来のみ	28,825	2,539	8.8%
	入院	1,426	143	10.0%		入院	22,637	1,869	8.3%
	転院	36	8	22.2%		転院	671	73	10.9%
	受診せず	1	1	100.0%		受診せず	7	3	42.9%
	死亡	15	0	0.0%		死亡	671	13	1.9%
	合計	6,101	590	9.7%		合計	52,811	4,497	8.5%

年齢区分別・転帰別・搬送件数のうち、連絡回数4回以上の件数、割合 (平成30年)

連絡回数が多いのは、7歳～17歳、40～64歳の転院。

年齢区分	転帰	1～3回 (人)	4回以上 (人)	4回以上 の割合	年齢区分	転帰	1～3回 (人)	4回以上 (人)	4回以上 の割合
0歳	外来のみ	280	13	4.4%	40～64歳	外来のみ	6,561	152	2.3%
	入院	131	0	0.0%		入院	3,470	86	2.4%
	転院	1	0	0.0%		転院	107	7	6.1%
	受診せず	0	0	—		受診せず	2	0	0.0%
	死亡	3	0	0.0%		死亡	74	3	3.9%
	合計	415	13	3.0%		合計	10,214	248	2.6%
1～6歳	外来のみ	1,888	35	1.8%	65～74歳	外来のみ	4,670	65	1.4%
	入院	544	10	1.8%		入院	4,201	85	2.0%
	転院	10	0	0.0%		転院	137	4	2.8%
	受診せず	0	0	—		受診せず	3	0	0.0%
	死亡	1	0	0.0%		死亡	110	1	0.9%
	合計	2,443	45	1.8%		合計	9,121	155	2.0%
7～17歳	外来のみ	1,659	46	2.7%	75歳以上	外来のみ	8,707	126	1.4%
	入院	431	10	2.3%		入院	12,069	174	1.4%
	転院	16	1	5.9%		転院	343	9	2.6%
	受診せず	0	0	—		受診せず	1	0	0.0%
	死亡	3	0	0.0%		死亡	445	16	3.5%
	合計	2,109	57	2.6%		合計	21,565	325	1.5%
18～39歳	外来のみ	4,545	78	1.7%	合計	外来のみ	28,310	515	1.8%
	入院	1,384	42	2.9%		入院	22,230	407	1.8%
	転院	35	1	2.8%		転院	649	22	3.4%
	受診せず	1	0	0.0%		受診せず	7	0	0.0%
	死亡	15	0	0.0%		死亡	651	20	3.1%
	合計	5,980	121	2.9%		合計	51,847	964	1.9%

年齢区分別・疾患別搬送件数のうち、現場滞在時間30分以上の件数、割合 (平成30年)

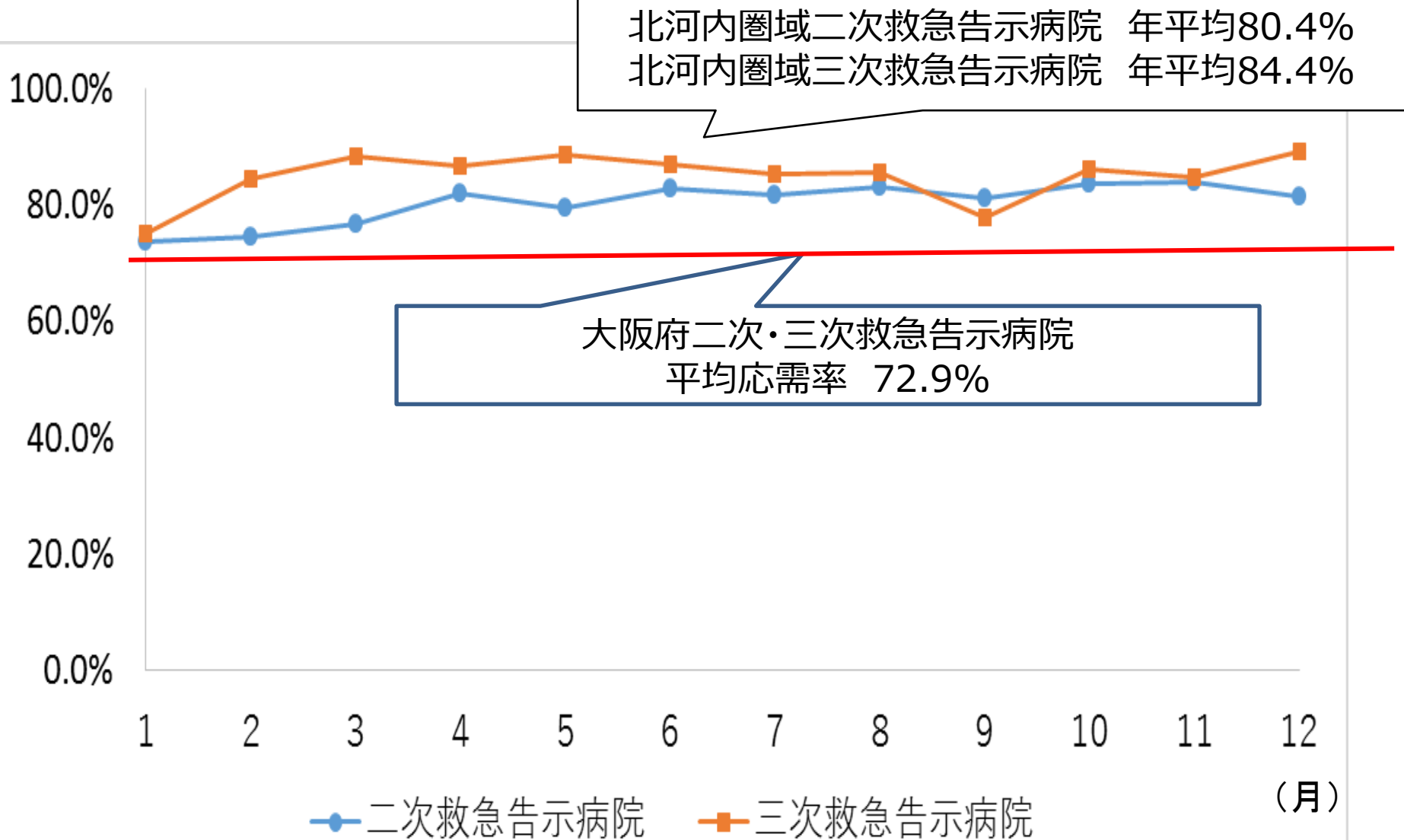
現場滞在時間が長いのは、「吐下血・消化管出血」「外傷」が多い。

年齢区分	疾患名	全件数 (人)	現場滞在 30分以上 (人)	現場滞在 30分以上 の割合	年齢区分	疾患名	全件数 (人)	現場滞在 30分以上 (人)	現場滞在 30分以上 の割合
0歳	循環器疾患(ACS)	0	0	—	40～64歳	循環器疾患(ACS)	247	3	1.2%
	循環器疾患(ACS以外)	8	0	0.0%		循環器疾患(ACS以外)	396	12	3.0%
	脳血管疾患(脳卒中)	7	0	0.0%		脳血管疾患(脳卒中)	653	48	7.4%
	呼吸器疾患	43	0	0.0%		呼吸器疾患	497	43	8.7%
	急性腹症	47	1	2.1%		急性腹症	469	21	4.5%
	吐下血・消化管出血	1	0	0.0%		吐下血・消化管出血	136	15	11.0%
	外傷	93	9	9.7%		外傷	2,997	395	13.2%
	その他	250	7	2.8%		その他	5,778	563	9.7%
1～6歳	循環器疾患(ACS)	0	0	—	65～74歳	循環器疾患(ACS)	252	4	1.6%
	循環器疾患(ACS以外)	2	0	0.0%		循環器疾患(ACS以外)	541	12	2.2%
	脳血管疾患(脳卒中)	48	1	2.1%		脳血管疾患(脳卒中)	784	64	8.2%
	呼吸器疾患	201	3	1.5%		呼吸器疾患	770	68	8.8%
	急性腹症	58	2	3.4%		急性腹症	420	16	3.8%
	吐下血・消化管出血	4	0	0.0%		吐下血・消化管出血	132	13	9.8%
	外傷	721	50	6.9%		外傷	2,237	262	11.7%
	その他	1,601	21	1.3%		その他	4,781	371	7.8%
7～17歳	循環器疾患(ACS)	0	0	—	75歳以上	循環器疾患(ACS)	403	14	3.5%
	循環器疾患(ACS以外)	9	0	0.0%		循環器疾患(ACS以外)	1,610	78	4.8%
	脳血管疾患(脳卒中)	132	11	8.3%		脳血管疾患(脳卒中)	1,521	121	8.0%
	呼吸器疾患	99	6	6.1%		呼吸器疾患	3,067	237	7.7%
	急性腹症	56	1	1.8%		急性腹症	922	57	6.2%
	吐下血・消化管出血	4	1	25.0%		吐下血・消化管出血	339	39	11.5%
	外傷	954	77	8.1%		外傷	5,242	620	11.8%
	その他	1,025	73	7.1%		その他	10,302	863	8.4%
18～39歳	循環器疾患(ACS)	6	0	0.0%	合計	循環器疾患(ACS)	908	21	2.3%
	循環器疾患(ACS以外)	87	3	3.4%		循環器疾患(ACS以外)	2,653	105	4.0%
	脳血管疾患(脳卒中)	228	23	10.1%		脳血管疾患(脳卒中)	3,373	268	7.9%
	呼吸器疾患	171	9	5.3%		呼吸器疾患	4,848	366	7.5%
	急性腹症	228	11	4.8%		急性腹症	2,200	109	5.0%
	吐下血・消化管出血	11	3	27.3%		吐下血・消化管出血	627	71	11.3%
	外傷	2,064	258	12.5%		外傷	14,308	1,671	11.7%
	その他	3,711	323	8.7%		その他	27,448	2,221	8.1%

初診時患者背景別・現場滞在時間30分以上の件数・割合（重複回答）
（平成29年・平成30年）

病院後情報の 初診時患者背 景別	平成29年			平成30年		
	全件数 (人)	現場滞 在30分 以上 (人)	現場滞在 30分以 上の割合	全件数 (人)	現場滞 在30分 以上 (人)	現場滞在 30分以 上の割合
住所不定	18	7	38.9%	12	3	25.0%
自殺企図	127	35	27.6%	141	34	24.1%
薬物中毒	143	33	23.1%	156	50	32.1%
飲酒	1,716	355	20.7%	1,705	333	19.5%
精神疾患	1,719	351	20.4%	1,793	330	18.4%
過去に問題	27	3	11.1%	40	10	25.0%
要介護状態	8,428	686	8.1%	7,617	635	8.3%
施設利用者	1,173	83	7.1%	1,507	106	7.0%
小児	1,001	58	5.8%	831	62	7.5%
まもってネット	5	3	60.0%	3	0	0.0%

二次・三次救急告示病院の平均応需率（平成30年）



ORIONデータ分析結果からみた圏域の現状・特徴

- 救急搬送全体をみると、75歳以上の搬送数が約4割で、そのうち「入院」に至るケースが半数を超えており、今後の高齢化進行で、搬送の負担増加はもとより、医療機関の受け入れ等の負担増大が考えられる。
- 現場滞在時間が30分以上かかる搬送困難者は全体の8.5%を占め、疾患別では「吐下血・消化管出血」「外傷」が多い。また、搬送先で「転院」となるケースも少なからずある。
- 搬送に時間がかかる背景要因として、「住所不定」、「自殺企図」、「薬物中毒」、「飲酒」、「精神疾患」、「過去に問題」などが考えられる。
- 平成30年応需率は、二次救急告示病院では年平均80.4%、三次救急告示病院では年平均84.4%で、大阪府全体の二次及び三次救急告示病院の年平均72.9%を上回った。